一号店の西古松局はドライブスルー方式を採用。二号店・三号店はコンビニ方式にして、バックで駐車する方式に変え、更に四号店からは、セルフレジ式を採用することで、同時に十台から荷下ろしができる。この四号店の大安寺局では各駐車スペースごとにテーブルとポイント発行端末が設置されている。来店者はパネルで品目を選択して計量器が設置されたテーブルに持ち込んだ資源物を載せていく。これによって集積能力が大幅に向上した。

四店舗の地域性の違いでは、一号店は先述にように岡山市内の中心街で、近くにマンションが多い。来店者数は多いが、若い世代が多いため、一人当りの持ち込み量は少ない。また三号店は年配の方が多く、四号店は逆に一人当りの持ち込み量が多い。

このようにえこ便は、設置場所による地域性で長所や短所があり、これらを見極めるために試行錯誤の連続だという。マイナーチェンジを繰り返しながら、持ち込む市民にとって使いやすい形態を目指している。

古紙が圧倒的に多い

前述のようにえこ便で最も多い品目は古紙で、全体の六割～七割弱を占めている。持ち込まれる古紙は家庭系に限られており、雑誌・雑がみが最も多く五割。次いで新聞が三割、段ボールが二割となっている。

大安寺局を見学

えこ便・大安寺局を見学した。敷地面積は約三百坪で、土地代・建物・機械設備を含めて総工費は約二億円。見学時は平日の昼間だったが、引っ切りなしに車が入ってくる。大安寺局の二階がえこ便の事業本部となっている。

えこ便の専用車両は四トンウイング車が二台、パッカー車が一台、貸出し用の軽バンが一台、専用の軽バン一台を保有している。車両やリフトは黄色に統一しており、すぐに分かるようになっている。四トンウイング車には、えこ便の回収カゴがちょうど四個入る設計になっている。

小型家電はリチウム電池等の抜き忘れが火災の原因になるので、前処理として電池を抜く。電池は絶縁テープを貼って種類ごとに保管する。小型家電の中でえこ便が回収していないものは、電気カーペット、電気毛布、家具調こたつ、木製スピーカー、電子タバコ等があげられる。またパソコンやハードディスクは、鍵付きの保管場所で保管している。

えこ便女子が活躍

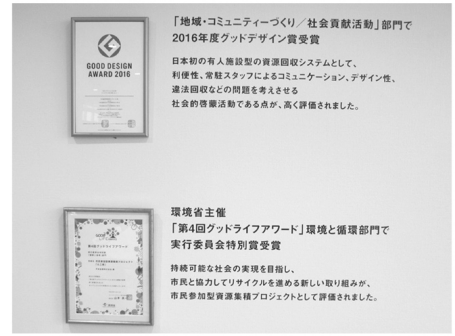
局員は各店舗五人～六人体制となっており、女性局員が中心となっている。これらの女性局員はフォークリフト等の資格を持っている。また小型家電の前処理や缶類の簡易プレスも行う。活き活きと楽しそうに働いているので親しみやすく、来場者数の増加にも繋がっている。

えこ便は二〇一六年にグッドデザイン賞を受賞。環境省が主催するグッドライフアワードの特別賞も受賞。各メディアで取り上げられていることもあり、市民にかなり認知され、女性が働ける場所としても人気となっている。えこ便に持ち込んでいて入社を志望してきた新卒者も少なくない。また鳥取環境大学は環境に特化した大学として認知されており、ここからえこ便に入社した学生も増えている。このように地域と繋がるえこ便が、環境教育や人材の確保に繋がっており、宣伝効果は計り知れない。

回収した小型家電

回収した金属類

専用車両で資源物ごとに処理工場へ運ぶ



グッドデザイン賞と環境省「第四回グッドライフアワード」特別賞受賞

保管庫で施錠しているPCやハードディスク類

小型家電の電池は取り外して絶縁テープを止める

えこ便・大安寺局で活躍するえこ便女子

全員がフォークリフトの免許を取得している